

令和4年度第2回葉山町総合計画審議会議事録

日 時：令和5年3月28日（火）10時～12時

場 所：葉山町役場3階 議会協議会室1

1 開会

事務局（大前係長）

皆様、年度末のお忙しい時期にお集まりいただきありがとうございます。定刻になりましたので、これより令和4年度第2回葉山町総合計画審議会を開催させていただきます。臼井会長よろしくお願いたします。

臼井会長

おはようございます。令和5年度は、次の計画を本格的に策定する手続きに入る訳ですが、今回は2点、町からアンケート調査結果の報告書と町民ワーキンググループの状況の報告を受けた後、前回、町田部長からお話があった計画策定に入る前に委員で意見交換しておいた方が良くと思われるいくつかの事項について、ディスカッションするための会議となります。後半に行う会議は計画策定の時に事務局の方で枠組みを決めてしまうのが普通ですが、少し意見交換しておきたいということで、特に前回部長から発言があった項目について、審議会の中で議論するのはかなり珍しいことではないかと思えます。皆さんから忌憚のないご意見を聞かせていただければと思っています。それでは、会議の中身に入って参ります。本日の会議の成立状況について事務局からご報告ください。

事務局（大前係長）

本日の審議会の出席委員は7名で、葉山町総合計画審議会規則第5条第2項の規定によって半数以上の出席があり本会議は成立していることをご報告いたします。

臼井会長

もう一つ確認しておかなくてはいけないのは傍聴の確認ですが、傍聴のご希望の方がいらっしゃるということなのでご入室させていただきます。

———傍聴者 1名 入室———

臼井会長

中身に入る前にもう一つ、資料の確認を事務局からお願いします。

事務局（大前係長）

メールと郵送で事前に送らせていただいた資料の確認をさせていただきます。まずA4／1枚で本日の次第、資料1として総合計画アンケート調査の報告書、資料2－1として町民ワーキンググループの概要（A4／1枚）、資料2－2として町民ワーキンググループ詳細報告（A4／9枚）、資料3として県内の他市町村の総合計画の状況表（A3／1枚）を送付させていただいております。過不足等ありますでしょうか。

臼井会長

それでは次第に従い順次議事を進めていきたいと思しますのでご協力ください。

2 議題

(1) 第五次葉山町総合計画の策定に向けた町民アンケート調査 報告書

臼井会長

資料1についてのご報告、事務局からよろしく申し上げます。

事務局（大前係長）

資料1に従い第五次葉山町総合計画の策定に向けた町民アンケート調査報告書をご説明させていただきます。ボリュームがあるため全て詳細に説明するのは難しいので、概略の説明をさせていただきます。また、今回お配りした資料1はまだ一部体裁が整いきれていない部分がありますので、完成版ができましたら別途送付させていただきます。

（3ページ）調査概要：今回のアンケートは令和2年度に実施したアンケート同様、町民1500名を無作為抽出させていただき実施しています。今回、WEB回答を取り入れたのが新たな取組みです。1500通アンケートを送付し回数数が516件、回収率が34.4%でした。前回は1500通出して739件回収（回収率49.2%）、前回と比べると回収率が今回はだいぶ落ちてしまった状況です。今回、回収が少なかった要因として考えられることが2点あり、1点目は、令和2年度にアンケート調査を行った時は新型コロナウイルス感染症拡大防止のための非常事態宣言中で、ゴールデンウィークを挟んでいる時期で、みなさんのおうち時間が長かったことが考えられ、アンケートに取り組んでいただけのケースが多かったのではないかとということ。もう1点は、今回、WEB回答を取り入れたこともあり二重送信や間違っ2回回答されてしまうことを防ぐために、アンケート調査票にそれぞれ整理番号を振らせていただいております。もしかしたら、整理番号をつけたことで、「自分の回答で個人を特定されてしまうのではないかと」と危機感を覚えた方がいらっしゃり、回答数が伸び悩んだのではと推測しております。詳細な原因は回答いただけなかった方にご回答いただくしかないのですが、あくまで想像でしかないので、前回との相違点を考えるとこの2点が考えられます。そして、今回新たに取り入れたWEB回答は、解答率が19.6%となっており、今年の12月に公共交通のアンケートを行った際のWEB回答が14.8%だったので、今回の総合計画の方がWEBでの回答率が高かったという実績です。今回、WEB回答を取り入れたのですが、中にはWEBで回答するには問題が長すぎるとのお叱りもいただいたので、これは次回の反省にしていきたいと思っております。

（4ページ）回答者の属性：問1「性別について」は男性208人、女性296人、その他1人、回答しない7人、無回答4人となっています。前回、この設問で無回答と性別をご回答いただけなかった方が32名いましたが、今回は少し少なくなっていました。女性の方が回答は多いという実績となっています。問2「年齢について」はこちらの表のとおり、男性女性共に50代の方に一番多く回答いただいております。

（5ページ）問3「お住まいの地域について」：字別の人口に応じた発送数に変えて発送しております。字毎のパーセンテージはおおよそ町の字別人口比率に応じた数字で回答いただけたかたちになっております。

（6ページ）「主な就業状況」：大きな括りとして働いている方が56%以上、働いていない方が38.6%となっており、勤め人の方が多くという状況で、常勤の勤め人の方が32.4%で一番多く、働いていない方も68人いらっしゃいました。

(7 ページ)「主な通勤先について」：今回は「その他の市町村」が減り、「東京都」「自宅、葉山町内」の方が増えている傾向にあります。これは、問7にも関連するかと思われませんが、新型コロナウイルス感染症の影響で都内や他市町村から葉山に移住された方や、ほぼ在宅でお仕事ができる方が増えているのかと推測できます。

(8 ページ)「葉山町での居住期間」：前回同様「20年以上」のお住まいが53.9%と一番多く、次に「10年以上20年未満」が25%と続いています。こちらは前回同様、長く葉山町に住んでいる方が多い傾向がわかります。今回、クロス集計も見ていただきたいのですが、特徴として30代の方だけが5年未満と回答している方が多く出ています。これは、コロナの影響もあってか、子育て世代の転入がこの世代は多く30代、40代になって葉山町に引っ越してきて子育てをさせていただいて、その後も住み続けていただいている傾向がこれでわかるかと思えます。

(9 ページ) 問7「葉山町に住む前のお住まい」：上位3つは前回とほぼ同水準でしたが、問5でもお話しとおおり、東京都からの移住が伸びている状況になっています。

(10 ページ) 問8「家族構成」：「2世代世帯」が60.1%と圧倒的に高く、次いで「夫婦のみ」で23.3%、「3～4世代世帯」が6.2%でこの順位は前回同様となっています。国勢調査を見ても葉山町の核家族の割合が県内トップクラスになっています。やはりこの数値で葉山町は核家族が非常に多いことがわかります。

(11 ページ) 問9「同居している家族について」：今回「いずれもない」が34.1%に上昇しており、次いで「65歳以上」の方が26.6%。「高校生・学生」が18.4%と続いています。この順位は前回と変わりはありませんでしたが、小学校入学前の乳幼児が2.2ポイント下がっています。その分小学生で0.4ポイント、中学生・高校生で1.7ポイント増えているので、ほぼほぼ子供達が年齢を重ねてスライドして人口のパーセンテージは変わっていない状況になります。

(12 ページ) 問10「自宅の形態」：葉山町は持ち家一戸建ての割合が非常に高く82.2%、次に借家の一戸建と続く順位も前回と変わっておりません。

(13 ページ) 問11「普段の自動車・二輪車の運転」：こちらは少し動きがあり、「自家用車を普段運転している」と答えた方が53.1%に上昇しております。

(15 ページ) 問12「葉山町の住みやすさ(強み)と住みにくさ(弱み)について」：こちらは前回の調査では「当てはまるもの全てに丸をつけてください」という回答方式でしたが、今回は、「この中から3つを選んでください」と優先順位付けを行うことにより、より皆さんのニーズを把握しようと努めております。まず「葉山町の住みやすさ」は、選択肢も若干変えており比較がしにくいのですが、やはり「自然」「治安」「ブランド力」「街なみ」という上位4項目については変化がありませんでした。トピックとしては、10代、20代の若い方に関しては、葉山町は「治安が良い」と答えている方が一番多く、一方でその他の年代では「自然環境が良い」に答えている方が多く、年代で分かれるかたちとなりました。

(17 ページ)「葉山町の住みにくさ(弱み)」：前回同様「交通の便が悪い」「物や店が少ない」「利用施設(サービス)が不足している」の順になっております。特に「交通の便が悪い」という項目については、全ての年代で最も回答が多くなっていました。交通に関しては第四次総合計画、現行計画にも盛り込んであるのですが、昨年度から交通事業者や関係機関と共に「葉山町地域公共交通

会議」を立ち上げており、現在、協議を進めております。葉山町地域公共交通計画についても令和6年度中の策定を目指して動いているところです。

(19 ページ) 問 13 「10 年前と比較しての住みやすさ」: 今回新たに設置した設問で、「変わらない」と答えた方が 58.9%と一番多く、次いで「住みやすくなった」26.9%、「住みにくくなった」10.9%となっています。住みにくくなったというのが少し低かったのでちょっとホッとしています。住みやすくなった割合を字別に見ると、「長柄地区」は 34.9%と葉山町の 6 字ある中で一番高い割合となっています。これは、旧逗葉新道沿いに新たにコンビニやドラッグストア、医療機関が立て続けにできているので、そのために住みやすくなったと回答されているのではと推測しています。

(20 ページ) 問 14 「葉山町への定住意向」: こちらも新たに設置した設問ですが、おかげさまで「住み続けたい」という回答が 86.4%あり大変嬉しく思っております。しかし、「住み続けたくない」という回答も一定数あるので、ここは 100%目指してやっていきたいと思っております。ちなみに某社の「住み続けたい街ランキング」では、おかげさまで葉山町は首都圏版で 2 年連続「住み続けたい街」のトップになっており、こちらもお報告させていただきます。今回、この調査の特徴といたしましては、年代が上がるにつれて「住み続けたい」と答える割合が増加しておりまして、その一方、「木古庭地区」は「住み続けたくない」の割合が一番高いという結果が出ました。

(21 ページ) 問 15 「住み続けたい町であるために重要なこと」: 例えば未就学児がいる家庭では「子育て環境の充実」の割合が高い等、ライフステージ毎に求めているものが違うということが浮き彫りになりました。その中でも上位にきた項目としては、「自然環境の保全」「交通環境の充実」「医療の充実」など問 12 「町の強み・弱み」とリンクするようなかたちになっております。

(22 ページ) 問 16 「まちづくり指標について」: 現在の総合計画に取り入れている指標について、アンケート調査でしか数値が取れないものについて取らせていただきました。

	(現状値)	(目指そう値)	(満足度)	
	令和元年度	令和 6 年度	今回調査	
まちづくり指標				
1 子育て施策 (満足度)	30.8%	70%	54.3%	大幅に改善
2 土地利用 (満足度)	54.4%	60%	54.8%	(微増) 少し改善
3 公園 (満足度)	40.4%	60%	54.8%	大幅に改善
4 河川整備 (満足度)	39.1%	45%	57.6%	目標達成
5 町道整備 (満足度)	33.8%	50%	42.2%	アップはしている
6 公共交通 (不満足)	30.2%	0%	61.2%	不満が倍増
7 PDCA 行政運営 (不満足)	38.6%	0%	45.7%	不満が増加
8 役場の縦割行政 (不満足)	36.7%	0%	36.6%	ほぼ横ばい
9 職員接遇マナー (満足度)	73.5%	100%	77.1%	アップはしている

1 「子育て施策の満足度」: 令和元年度の現状値は 30.8%、令和 6 年度の目指そう値は 70%としております。今回の満足度の値が 54.3%と大幅に改善されたものの、まだ目標の 70%には届いていないような状況であります。(以下 説明省略)

(23 ページ)「9つの指標の10年間の変化」:総じて「悪くなった」より「よくなった」の方が優っておりますので少し安心はしておりますが、「2土地利用」「3公園の維持管理」「6公共交通」については、9項目の中でも「悪くなった」と答えている割合が多いので、事実は事実として受けとめ、今後の事業に反映させていきたいと思っております。逆に「1子育て施策」「9職員の接遇マナー」については3割以上が「良くなった」と回答してくださっており、引き続き向上させていきたいと思っております。

(24 ページ) 9つの指標の満足度と10年間の変化のマトリックス図について:縦軸が変化、横軸が満足度、注目したいのが、当然、問12町の弱みのトップ項目であった「公共交通」の満足度が低く、かつ変化の評価の低さが浮き彫りになったかたちになっております。逆に右上にある「職員の接遇マナー」については、満足度も高く、かつ変化の評価も高かったという項目になっております。

下段の認知度の部分については、こちらの3項目についてもやはりまちづくり指標でありまして、こちらもアンケート調査でしかわからないのでアンケートで取らせていただきました。

	(現状値)	(目指そう値)	(認知度)	
まちづくり指標	令和元年度	令和6年度	今回調査	
10 友好都市 (認知度)	70.4%	100%	75.2%	5ポイント上昇
11DVの認識 (認知度)	なし	100%	86.6%	新規項目の為、現状値なし
12 自分は健康 (認知度)	83.3%	85.5%	80.0%	少し減少

葉山町は令和3年度に御用邸友好都市ということで栃木県那須町と静岡県下田市と協定を結び友好都市となりました。(以下 説明省略)

(25 ページ) 問17「現行の施策の満足度と今後の重要性について」:満足度と重要度をマトリックスに落としたものが29ページにあります。縦軸が重要度、横軸が満足度を表しております。右上にいくほど葉山町の施策の満足度が高く、かつ重要度も高い項目で、こちらに当てはまるのが「消防救急」「災害対策」「防犯」「交通安全」「循環型社会の形成」と葉山町の強みの部分とリンクする部分です。そして左に行くほど不安が高いということで、今回、重要だと思われているのに満足度が低いものとして、「公共交通」がこちらにランクインしております。そのほかに「町道の整備」「幹線道路」など目に見えやすいところの不満が高くなる傾向にあります。下の方、満足度が低く重要度も低いと思われているのが、「姉妹都市の交流」でした。

(30 ページ) まちづくりの具体的な方向について、問18「町に関する情報入手に必要なもの」:予想通り「広報葉山」が圧倒的に1位ですが、注目したいのが「町公式SNS」と「町内回覧」がほぼ同じ位のところにランクインしております。こちらを年代別に見ると、若い方はSNSを多く利用しており、年輩の方は町内回覧を使っている傾向が出ております。

(31 ページ) 問19「協働でまちづくりを行う上で重要なこと」:「人材育成」「町民と行政の対話」が重要と回答した割合が高い結果でした。

(32 ページ) 問20「効率的効果的な行政運営を行う上で重要なこと」:「行政のデジタル化」「ワンストップ窓口」「手続きの簡素化」を町民の方は望まれています。

問 21 から問 26 までは各ライフステージに合わせた設問になっております。

問 27 「葉山町の目指す姿としてどのようなキーワードがふさわしいか」：資料 1 の後ろに 370 件の皆様からいただいたものを入れてあります。全部を紹介できないのでトピックだけ簡単にご説明すると、370 件のアイデアの中から、どれくらい同じような言葉が使われているのか調べたところ、一番多いキーワードとしては、「葉山」、これは葉山町なので当然かもしれませんが、次に「自然」103 件、「海」69 件、「山」57 件、「安心」「美しい」16 件、他にも「環境」も多く、こういったものが皆様の共通の認識として持っていることがわかりました。

話が長くなってしまいました、報告は以上とさせていただきます。

臼井会長

アンケート調査結果についてのご報告ご説明ありがとうございました。何かご質問、ご意見などありましたら伺います。如何でしょう。

高梨委員

既に大前係長に連絡したのですが、私自身がアンケートを拝見する機会があり、調査票の鏡文のところの URL が間違っていてインターネットに入れなかったり、実際にインターネットで答えようとした時、脱字が何箇所もあり疑問に思ったりすることがありました。文量は変わらないのですが紙ベースで見るより WEB で見ると多く見えるので、回答を途中でやめた人が多くいるのではないかという気がしました。今回、回答者の属性の母集団の数が少なかった考察の一つとして、外で働いている人が回答しづらかったのではないかと、家にいる人と対比すると少し難しかったのではないかと思います。例えば 7 ページ、「通勤・通学先はどちらですか」で回答に増減があったのですが、そもそも回答者数の母体がこの増減と連動していないのか気になりました。また、6 ページ、「家事専業」を「働いていない」でまとめることについては、少し気になりましたので文言として検討してほしいと思いました。今の回答者属性等の話ですが、例えば、住みやすくなった理由を新しい商店が増えたからではないかと話された一方で、17 ページでは、店やサービスが少ないということがあり、他の項目との整合性がそうなっているのかと話を聞きながら思ったところがありましたので、また検討いただければ嬉しいと思いました。また、目標値との整合の話をしてくださりましたが、当然、まだ中途なので目標値に届いていないものが多いと思いますが、現段階の数値としてそれは妥当な数値なのか、目標値が高すぎてまずい状況なのか、現状と照らした場合に今の目標値がわかりづらいので、大丈夫ですかと総じて質問したいと思いました。マトリックスにさせていただきわかりやすかったのですが、例えば 29 ページ、その中身はどの設問のことか分かりづらく右上の「満足度が高く重要度も高い項目」の中の上から 3 つ目の「豊かな心情勢」と書いてあるのですが、これは多分「豊かな心の育成」の間違いだと思うのですが、それがどの項目かが分かりづらかったので、例えば設問番号が見えるようなかたちだと検討がしやすいと思いました。感想も含めて以上です。

事務局（大前係長）

至らなくて申し訳ございません。ありがとうございます。今の高梨委員が言われた「家事専業」の方が特に「働いていない」という括りはおっしゃるとおりです。大変失礼いたしました。ここは早

速直していきたいと思います。その他、もう少し表を整理したかたちで最終版を作らせていただきお送りいたしますので、それで確認していただければと思います。ありがとうございます。

臼井会長

貴重なご意見ありがとうございます。他に感想でもありましたらお願いいたします。

調査の方法ですが、郵送は調査用紙を郵送して書いてもらい送り返してもらおう。WEB 回答はどのようにしたのですか。

事務局（大前係長）

WEB 回答につきましては、ご自身のスマホやパソコンで回答していただくので用紙は回収しません。あくまでインターネット上で回答して送ってもらうかたちです。

臼井会長

いや、つまり、特定の人を選んで WEB で依頼したかたちですか。

高梨委員

見た者ですから説明すると、紙でも来たのですが、WEB だけで答えようとするとうごく画面が見づらく、結局、紙を見て答えないと答えづらいようなかたちになっていたということが気になりました。

臼井会長

郵送した対象者が WEB で回答することができるということですね。

事務局（大前係長）

はい、そうです。

臼井会長

はい、わかりました。

事務局（大前係長）

今回、町の方での WEB 回答について、一般企業の方がよく使う Google フォームを使うと非常に便利なのですが、役場のセキュリティの関係でどうしても使えず、町の様式に定まった単純な受付フォームを流用するしかできなかったため、少し見づらいかたちとなってしまいました。言い訳みたいになってしまいすみません。

高梨委員

もう一つ、同時期に別の団体が葉山町の住みやすさについてのアンケートが家に来たこともあったので、その辺りの影響も気になりました。

事務局（佐野課長）

今、高梨委員がおっしゃられた別の団体とは、民間の団体ですか。

高梨委員

政党からのアンケートでした。

事務局（佐野課長）

ありがとうございます。

すみません、お詫びなのですが、そもそも URL が一文字欠けていたこと自体が WEB 回答をされる方に大変申し訳なかったと、二次元コードは貼ってあったので、ご回答いただいた方は二次元コードを読み込んで回答いただいた方だと思います。ホームページ等で誤りについてお知らせしようと思

ったのですが、それを見て対象者でない方が回答されると適正なアンケートではなくなってしまうのでそれができず、大変申し訳ありませんでした。

富樫委員

感想で申し訳ないのですが、15 ページ、「葉山の住みやすいところ」に何年か前とも同じ「自然」と「治安」が挙がっている。これは今後の第五次の計画にもつながるのでこれを守っていくような政策をしていただきたいというのが感想でもあるし、これからの課題としてもあるので意見として言わせていただきました。

加藤委員

非常に良くまとめられていて分かりやすかったと、ここまでまとめるのは大変だったろうと思いました。この年代別のところを見させていただき、30代から60代、まあ50代が多いのですが、この結果で見ると世帯構成比から子育てをしていく、子育てといっても小さい子から大学生レベルの大きいお子さんを育てていく世代が非常に多いのだらうと思いました。そう考えると、そこが次の計画への落とし込みのヒントになってくると感じました。また、25 ページ、現行の施策への満足度・重要度、もう一つその先の「今後の」というところもありました。そこが今後の大きなところですので、葉山にとって私も町民として感じるのは、この自然の中でどう生活していくかが大きいと、皆さん、そう考えられているのだらうと感じました。私の近所の方がご高齢になり、「どうしてもお子さんのところに引っ越さなくてはいけない、自分は嫌なのだけど」とおっしゃっていました。その中で、「不自由さを非常に贅沢に思っている」という言葉をいただきました。確かに交通の面では不便で私の息子は「逗子まで出るのも大変だ」と言っていますが、年代が上がってくるとこの不自由さが逆に贅沢だと感じられるという言葉をいただいていますから、年代によってニーズを少し切り分けながら次の計画を立てていけばよいのではと思いました。本当に感想で申し訳ありませんが以上です。

臼井会長

ありがとうございます。とても貴重な意見だと思います。

事務局（町田部長）

今、ご意見を伺っていて、後程の議論に役に立つのかと思い取ってお話しさせていただくと、見ていただくと町の住みやすさや弱みは、10年前と変わっていないことをお分かりいただけたと思います。前回、会長からもお話がありましたとおり、目出しをさせていただいた計画期間の設定のところにつながってくると思います。不変のところがあることを踏まえると計画期間の設定のところそれがキーワードになってくるのかと思われます。VUCA（ブーカ）の時代と言われていますが、葉山町の良さ、悪さというところはそれに影響されずに、ということ踏まえると、計画期間の設定をあまり私が過度に意識しすぎたのがあるかと思しますので、それだけコメントさせていただいた上で後程の議論に活かしていただければと思います。

高梨委員

今、町田部長が言われたことに通じるのですが、アンケートの23 ページを見ると、10年前からの変化が「変わらない」が多く見えるのですが、満足度が高くて「変わらない」と回答されている方と、満足度が低い印象でという方と大きな違いがあると思います。実は、この「変わらない」の中に、「良いのでこのまま変わらないで欲しい」という思いもあるのではないかと思うので、一つ前

の「満足度」高低と「10年前との変化」を相関させて評価を出した方が、もしかしたら葉山町の変わってほしくない良いところが見えてくるのではないかと思います。23ページだけを見ると「変わっていない」がマイナス評価に捉えられてしまいそうでもったいないかと思いました。

また、交通のところ、評価が下がっているという話がありましたが、交通の機関そのものが悪くなったというだけではなく、例えば、スマホアプリでタクシーを呼ぼうとすると、葉山ではなかなか見つからなくて、タクシー会社に電話をするとタクシーがいるということがありました。つい最近できてきたシステムの関係性もあり、10年前にはアプリそのものが存在しなかったので、タクシー会社に電話するしか無かったから、それに比べると今の方が悪く感じてしまうところもあり、サービスそのものが変わっていることも一つの課題点としてあるかと思いました。

臼井会長

ありがとうございます。言葉にしづらいのですが、例えば、東京のど真ん中や横浜駅周辺等は、一定のスピードで変化をしています。その変化をしていることがその街の魅力みたいな感覚を私達は持つてしまうのですが、このアンケートの結果は、町の魅力はそれだけでないということを表していて、弱みになっているものは変化させて、その弱みであるが故に困っている人を減らす努力はしなくては行けないが、そうでない部分は長い時間経過の中で維持をしていく、あるいは、強い部分をきちんと守っていくことが大事だということが明らかになったと考えれば、少し嬉しくなるような結果です。つまり、横浜は今でもときどき行きますが、何となく絶えず変わり続けて近代的な街を更新し続けなければいけないような感覚に、横浜のまちづくりの関係者は捉われるようになってしまっているのでは。例えば、地下鉄にしても、ものすごくコストがかかるものを作っていますが、横浜も人口が減少になり始めるわけです。人口が減少すると、いきなり公共施設の維持が苦しくなることは誰でもわかる話だけれども、横浜市都市計画をしている方はわかっているのかしらと思います。だから、絞らなくては行けないことを絞って、メリハリをつけながらやらなくては行けないということがうまく整理できていないことを、特に横浜に感じるので、それと比較して考えたとき、葉山は守らなくては行けないことが間違いなくわかるということがすごい気がします。

近藤委員

ニーズが高いところで不満が多いのは、「町道の整備」があります。細いという指摘がありますが、それが良かったりするわけです。私も横浜近辺、関内辺りで仕事をしていて目まぐるしく街が変わるのを見ているのですが、葉山に戻ってくると葉山らしさ、特に海岸線の道がという具体的な指摘があり、「あそこだろう」と思いますが、「あそこは残したい」というのもあるので、整理の仕方が難しい。何か幹線道路の整備の不満もあるが、その道はその道で残しても他の道路網としての整備を進めるなど、行間をすごく読まなくては行けないというすごいアンケートだと思ってずっと見ていました。意見です。

臼井会長

近藤委員の言われることがすごく分かります。車のためには車が走りやすい道路があった方が良いのだけど、車が通れない道路は子ども達が安心して遊べる道路だったりします。例えば鎌倉には車が通れない細い道がたくさんありますが、それを綺麗に整備して車が通れるようにしてしまったら、鎌倉の裏道の良さがなくなってしまいます。葉山もメインの通りとそうでない車が通れない道の良さ、子どもたちもお年寄りも安心して歩ける道としての良さ、それをどう調整するかという話

で考えなくてはいけない。一つの価値観だけでなく、計画を作るときにそのことを意識しながら考えるのは結構難しい話だとよく分かりました。近藤委員のおかげです。ありがとうございます。

松井委員

個人的な意見になってしまうかもしれませんが、9ページで東京都から移住してくる方が多いという結果があります。葉山町は小さい子の子育てがしやすいと言って来られる方が多いと聞いていますが、私も京都から戻ってきました。子育て支援については10年前に比べてとてもよくなってきているようですが、24ページのマトリックスを見ると、「公園の整備・維持管理等」のところの満足度が上がっていない。小さい子を連れて戻って来て感じるのは、地域に子どもを遊ばせるような公園などの場所が限られてしまっている。各地域にそういった公園があったり、妊婦さんはトイレが近かったりするので、トイレも一緒につけてもらえる公園があれば、もっと子育てもしやすく小さい子も安全に遊ばせる場所ができると、そのような話もずっとしているのですが、なかなかトイレの整備なども難しいということできていません。その辺も考えていけるともっと外から入ってきて子育てしやすいということに政策の部分と環境の部分が整うととても良いと、個人的な意見ですが思います。

臼井会長

ありがとうございます。

八木委員

私も意見というか感想になってしまいましたが、15ページの「葉山町の住みやすさ」で皆さんが言われたように「自然」「治安」「ブランド力」は引き続き保っていくところだと思います。その一方で17ページの「住すみにくいところ」(弱み)で「交通の便が悪い」ということで、私も逗子からバスを使って出勤しているのですが、そこを第五次の計画を立てるときに何か良い案、他の自治体であるような乗合バスやタクシーなど良い案があれば、計画の一部に入れることも可能なのかと思いました。

臼井会長

ありがとうございます。みなさん、一通りご意見、ご発言いただけたかと思います。まだ、いろいろあるかと思いますが、今日の報告書は次年度、計画の策定に入っていく時にもう一回、皆で見直ししながら意見を言う材料にしましょう。

(2) 第五次葉山町総合計画町民ワーキンググループの概要報告

事務局(大前係長)

それでは資料2-1と資料2-2に沿ってご説明させていただきます。時間も押してきましたので概略で説明させていただきます。今回、町民ワーキンググループを開催するにあたって、アンケート同様、1500名の町民の方にお手紙を出し参加してくださいとお願いをしております。ちなみにこの1500名はアンケートとは別の方で、その中から参加したいという方より申し込みいただき開催しました。1500名出して、コロナ禍なので30名か40名も来てくれたら良いと思っていたら、予想を超えて66名の方から参加したいというお声をいただきました。その後、どうしても都合が悪くなったり体調が悪くなったりした方があり、最終的には50名の方にご参加いただいております。内訳は男性19名、女性31名となっております。特に若い女性の方に多く参加いただき、参加者の

平均年齢が 43.5 歳と非常に若い結果でした。50 名の方を日にちと時間を 3 回に分けてそれぞれ 20 名、15 名、15 名の方にご参加いただいております。毎回、1 グループ 5 名～7 名の 3 グループに分け、合計 9 グループの中からご意見をいただきました。このワーキンググループの内容は、最初に葉山町の概略として人口の推移や町の財政状況を事前説明させていただき、その後、3 つのグループワーキングを行いました。1 つ目が「町の強み・弱みは何ですか」、2 つ目が「10 年後、葉山町はどんな町になって欲しいですか」、最後 3 つ目が「みなさんで考える 10 年後の葉山町のキャッチコピー」ということで、この 3 つをグループワーキングさせていただきました。それをまとめたものが資料 2-2 の概略になります。ワーキングは付箋を使った KJ 法を用いて実施しているのですが、付箋の意見として多かったキーワードは「町の自然環境が良い」です。それから「住環境がよかった」、「人づきあい、近所づきあいなどコミュニティが良い」、「葉山のブランド力が良い」というご意見が多かったです。逆に町の弱みとしては、やはり「道路・交通が良くない」が圧倒的に多かったです。それから「施設が古い」などです。今回、特に資料 2-2 の 1 ページ目ですが、特にこの日は 10 代～20 代の女性が多かったので、若い女性だけに集まっていたグループを作ったところ、非常に良いものがありまして、町制 100 周年を令和 6 年度に迎えるわけですが、この子達の町の将来像のキャッチコピーとして「つなぐ・伝える・葉山愛」という良いフレーズをいただきました。その他に、2 ページ目をめくっていただきますと、「今のまま葉山」というキーワードが良いのではないかと、葉山町、今のままがやはりいいよねというご意見もたくさん出ておりました。それから会話の中で近藤委員が言われたように、町の道路は狭いけどそれがいいんだ、交通安全にもつながるし、ゆったりとした雰囲気でお道を歩くのが良いという意見も多々ありました。こういったかたちで各 9 グループから様々なご意見をいただき、まとめさせていただきました。雑駁ですが説明は以上です。

臼井会長

ありがとうございました。資料 2-1 と 2-2、2-2 ではグループワークで実際に出てきた意見が網羅されていますが、なかなか見てすぐにはコメントしづらいかもしれません。

高梨委員

最初の若い子達に集まってもらったという資料をざっと見た時に、「お店でサイゼリヤが欲しい」と書いてあるのですが、これは特定のそういうところが来てほしいという意味ではなくて、その裏に、安価で若者達が自分達で集まって話ができるコミュニティスペースが欲しいという意味が実際にはあるのではないかと感じています。例えば都城市では、市立図書館の近くに子育て世代活動支援センターがあり、図書館の中に 10 代の子ども達が優先的に活動できる場所を設けるなどをしていました。先ほどの話の中にあつた「つながる」というキーワードがこの資料にも出てきているし、複数の団体がコミュニティの話を書いてくれたのかと感じました。

臼井会長

ありがとうございます。あとは感想でも構いませんがいかがでしょう。読みだすとなかなか面白く、どのようなことが根っこにあって言葉が出てきているのか考えると、少し分析するのに時間がかかってしましますが、これも次年度、計画策定に入った時に参考にさせていただくことにして、今日一番ディスカッションしておきたかった計画の基本的な考え方というわけでもないですが、い

くつか整理しておいた方が望ましそうな項目のディスカッションに進めさせていただいてよろしいでしょうか。

(3) 第五次葉山町総合計画の方向性

①計画期間の想定 ②人口推計の捉え方 ③数値目標（指標）の設定 ④達成手法の検討

臼井会長

第五次葉山町総合計画の方向性ということで①から④まであります。この項目の①から順番に皆さんからご意見をいただければと思いますが、少し趣旨を事務局からいただいてそれを受けて皆さんからご意見を伺えればと思います。事務局にまずはお願いできますか。個々の話に分けてしまうより、まずは4項目全部説明してください。その上でどこからでも良いので意見をいただくかたちで進めます。

事務局（大前係長）

資料3（A3／1枚）に沿って説明させていただきます。資料3については神奈川県にある33市町村の『総合計画の状況』について一覧にまとめたものになります。今、法律の関係で総合計画は必ずしも策定必須ではないため、総合計画がない自治体もあります。そうは言っても33自治体のうち30の自治体で総合計画は策定されている状況です。

①『計画期間の想定』については、基本構想の部分から見ていただくと、計画期間は各自治体でまちまちになっている様な状況になります。長いものになると、例えば川崎市は30年、鎌倉市は24年など、その他にも三浦半島の自治体は長いところが多く、短いところは、8年から9年、10年、12年刻みなど、それぞれ分かれています。この中で特に多いのは10年刻みで15団体が10年刻みで策定しています。計画期間でもう少し触れておきたいのが、世界的な情勢でいうとSDGsのゴールの年が2030年です。それから2050年がカーボンニュートラルの実現の年で、一つの大きな節目になっております。葉山町は現在、葉山町第四次総合計画、10年刻みであります。例えばこれを首長の任期に合わせて8年か12年の方が良いのか、先ほど、町田部長も申しておりましたが、もう少し長い期間、葉山町で変わらない部分もあるので、長く基本構想をとった方がよいのではというご意見もあろうかと思えます。同じく、右の方を見ていただき、『基本計画』の部分になります。基本計画は、基本構想を受け、さらに細分化しているものになりますが、基本計画も短いものでは3年という自治体もありますし、長いところでは10年という自治体もあります。一番多いのは5年という刻みで基本計画を作っている自治体が多いというかたちになります。また、『実施計画』につきましては、そもそも実施計画を策定していない自治体もあるので、単純な比較は正直難しいのですが、多くの自治体は2～3年で刻んでいるところが多い現状です。

②『人口の目標の設定』をどのような扱いをしているかにも触れてみたいと思います。2060年位までの人口推移表を出して、人口減が見込まれますと出している自治体が殆どで、県内24の自治体が人口減少するだろうという推計をしております。逆に人口増をさせるという目標を設定している自治体も2つありました。葉山町も含めて今の人口を維持していくという考えの自治体も4団体あります。葉山町の人口推計は、後期基本計画を作る際に人口推計をしておりますが、やはり人口減少が見込まれており、2065年、約40年後には人口は2万4千人まで減るというものを見込んでおります。ただ、これを今の町の人口が約3万2千人ですが、維持していくのか、人口増を目指すの

か、人口減少を見込んだかたちで何か対策を立てていくのか、どういった方向性をとるのかは、まだ事務局内でも固まっていない状況ですので、皆様のお考えをお聞かせいただければと思います。

③『数値目標（指標）の設定』について、町の総合計画の中では、それぞれまちづくり指標というものを設けて目標数値を立てているのですが、実際、追いきれない、追っている途中で整合性が取れなくなってしまう、そもそもこの数値でない方が良かったのではないかなど、いろいろ課題も見えてまいりました。第五次総合計画を策定するにあたり、どういったかたちで取り入れたら良いのか。そもそも目標数値はない方が良いとか、いや、この重要な部分は入れた方が良いとか、いろいろお考えも出てくると思いますので、皆様のご意見をいただければと思います。

④『達成手法の検討』について、第四次総合計画では、全ての施策に「協働でできること」ということで、達成手法を書かせていただいております。今後、第五次総合計画でもこういった手法を取り入れていくのか。協働という部分では、やっていくのは当然だと思っているのですが、書いていくには若干無理があるような部分もありますので、そういった部分をどうするのか。そもそも協働という言葉は、皆さん当然だと思っているので何か別の言葉に置き換えた方が良いのかなど、捉えどころのない説明で大変申し訳ないのですが、このような部分を踏まえて皆様からご意見を賜ればと、よろしく願いいたします。

事務局（町田部長）

時間に限りもあるので簡単に補足をさせていただきます。次第の方には、敢えて①～④というかたちでこの辺をご議論いただきたいと設定させていただきましたが、会長からもまとめてご議論というお話もありました。キーワードの視点が大きく分けて私の頭の中に3つあり、一つは事務局の説明にもありましており、「総合計画自体の法的な位置付けが変わり、自治法上、基本構想が法で規定されなくなり地方自治体の判断で作るか作らないか決めて良い」という法が変わったこと。二つ目が時代の流れ、社会情勢が変化し、冒頭、私も申しあげたとおり、「先行きの見通せない不確実性、変動性のある、いわゆる VUCA の時代の中で、どうこの総合計画を位置付けるか」。そして三つ目は、それらをさておいてもそもそも総合計画自体の存在意義が昔からいろいろ批判的な見方をされていた、いわゆる総花的な計画で、あれもこれも全部ひっくるめて計画を作る、作らなくてはいけないということだったので、そう言った計画が実効性を伴うかどうかという批判は前から受けておりました。そういった視点の中で、敢えてこの4つの項目、「期間の設定をどうするか」、「不確実性の中、人口推計をどうするか」、「達成の手法としてこういった非難を受けざるを得ない状況の中、第四次では協働の視点を入れたけど第五次はどうしたら良いか」ということを敢えて4つの視点として供出させていただきましたが、背景には、そのようなものがあるということも補足させていただきます。よろしく願いいたします。

臼井会長

ありがとうございます。町田部長の説明が背景なので、逆にいうとその部分について、こう考えたらどうかということコメントいただくと4つについて大元の個々にコメントしなくても話としては良いという意見もあると思うのですが、どこからでも結構です。①～④の個別の話でもよいし、あるいは、社会変動の波が大きくなっている状況の中で総合計画そのものをどのように考えたらよいのかの中で、①について、②についてというようなことでも結構です。残っている時間を全

部これに当てたいので、ご出席いただいた皆さんから一言ずつは、発言いただきたいと思っております。いかがでしょうか。

近藤委員

まずは、計画の期間なのですが、私は2030年、2050年だという大きな国の方針なりSDGsに連携した目標みたいながありますが、やはり首長の任期と揃えるべきだと思っていて、そのような意味では4の倍数が計画期間に良いのではないかと。当然、何か政局の政変があった時、首長は変わるわけであり、その時大きく方針を見直すのが良いのではと私は思います。それに付随して基本計画、実施計画の年度もブレイクダウンしていくのが良いと考えています。そして、そのこれまでの議論の端々に出てきた人口の動態をどう捉えるかが実は一番大事だと思っていて、ここの捉え方によって町の作り方も変わります。町の作り方というとても大きな話で、道路の設備がどう、公共施設を充実させてほしいなど、いろいろなことが書かれていますが、当然、人口の推計をどう考えるかによって政策判断が全部変わるので、ここがポイントだと。そして、これまでのいろいろなアンケートを見ていて、ドラスティックに葉山町が変わることは求められていないでしょうし、物理的な住宅ができる面積も考えて、人口が今より増えるというのはあまり現実的ではないと思います。計画を左右する人口なのですが、現状維持なのか、減少なのか、もしくは微減なのかということだと思います。大きなポイントなので、明快に話ができないのだけれども、現状維持というより、やはり微減というのが現実的な見通しだと思っています。今、住民に求められていることあるのですが、新しいものを作るというよりも、今あることを如何に成熟させていくのが今後のまちづくりの大事なポイントであると思っていて、そのベースとなる人口ということでも、現実的に考えたら微減なのだろうと。コロナ禍の葉山町の自然増減の話、社会増減を見ていると極めて面白いデータが出ていて、コロナ禍で社会増がとても増えた。自然増減で見ると高齢社会の中であって、自然減が続いている。自然減を社会増が補っているかということ、ぎりぎり補いきれていないという数字である。かつ、ポイントとしては、コロナ禍に社会増で流入してきた人が、令和4年で見ると、また流出している状況があります。非常にデータとして貴重なものであって、今後のまちづくりを考える上でもコロナ禍の人口のトレンドは、大いに考察を深めた上で考えるべきだと。取り止めのない話になっているのですが、人口の推計は、微減なのではと、これは意見として申し上げておきます。

臼井会長

ありがとうございました。とても貴重なご意見で、現実的なところでのご判断かと思えます。意見はいろいろあってよいので、当然の話ですが、近藤委員とは対立する意見でも構わないです。視点として、こういう視点があると捉えさせていただきますので、ぶつかる意見でもかまわないのでお願いいたします。

加藤委員

意見というか「今後の」ということで、計画期間について、前々から総合計画は10年刻みだったのですが、10年刻みも5年刻みも何か中途半端な感じがしていて、先ほど大前係長や近藤委員がお話ししたように、首長が変わる時が良いのではないかと。首長さんは4年ですが、2期の8年程度がよいのかと、私は前々から少し気になっていました。前々と言っても30年位前から気になっていたのは、首長が変わるとガラッと変わりもしないのに何故それをやらなくてはいけないのかなど

思っていたので、計画期間の設定は近藤委員と同様、首長の任期に合わせた8年位がよいと思います。人口の推計は、葉山町の何年か前の総合計画で、3万3千人、4千人でいくのだろうと思っていたのですが、結局そこに届きませんでした。神奈川県的人口も毎月見っていますが、一時はコロナが始まって葉山に人がくるので微増していた時期がありましたが、今は微減、そして社会増が非常に多くてもそれでも微減なので、人口としても今後は、日本の統計から見ても減るだろうと思うので、微減に近い“減る”という感覚で捉えた方がよいと思っています。そうすると人口が若干減ってくると、いろいろな各施設などのあり方、維持の仕方も変わってくるのではないかと考えています。そして、目標数値というのがありますが、目標数値ができるものとできないものという曖昧なものがあると思います。全てが数値でなく、このような方向ということもあるので、そのようなものが必要なのかと思っています。達成の手法は、私などが言えるものではないかと思いますが、皆さんが議論している中で意見が出てくるかと思っています。3項目については今のような意見を持っています。

富樫委員

計画期間については、お二人が話されたことが本当にそうだと実感いたしました。②と③について話をすると、人口推計は必要だと思います。特に何人増えたかというよりも世代別に何人、どう増えていっているかが非常に重要だと思います。それによってどのような計画を作っていくかに関わっていくので、純粋な人口だけでなくどの世代がどのように増えているかをポイントにすればよいと思いました。目標数値は、私は教育委員会から出ているのでその立場でお話しすると、教育は数値で測れないものが非常に多く、ここではありませんが、例えば「教育相談」の数が増えればよいという話がありましたが、教育相談が増えるということは、子どもの内面で起きている葛藤を無くしてあげることが本来の意味であるので、純粋に数値、要するに数だけで測れないものが教育施策の中に非常に重要なものがいっぱいあります。でも、それは数値ではなく、如何に子ども達、保護者に対して満足度を与えられるかに変わってくるので難しい。他の部署のところも見ましたが、指標名のところで目標数値が限られたものだけが載っているので、やはり網羅しにくいのだろうと思います。そういったところを考えると、なかなか数値で表せるものばかりではないと私は感じております。達成手法は、今回、協働できることが可能であれば入れる。当然、行政だけでやるのではなく、町民全体でやった方がよいものがあります。ワーキンググループもこれだけ参加者が多いということは、なんらかのかたちで参加していきたいと思われている方が多いと思います。そういったことを考えると、ある程度何ができるだろうというところからスタートして、無理に入れるのではなく入れられるものについては入れる。参加したい、やっていきたいというところを入れる方向が非常によいと思いました。

八木委員

私も①～③までの意見というか感想なのですが、①に関しては前の審議会でもあったと思うのですが、今、変化のスピードが速い時代で、この計画を作るのはかなり大変だと思うので、4年は短すぎる。首長さんの交替に合わせて8年～12年というのが妥当なのではと思っています。②人口推計の捉え方は、日本全体で人口が減っていることを考えると、人口増は理想だが現実的に難しいというところで、皆さんと同じですが、できたら現状維持でも実際のところは減になってしまうのだと

思います。③目標数値の設定は、全ての項目に対して数字で載せるのは難しいと思いますが、これは全部入れないといけないのですか。

事務局（大前係長）

そんなことはありません。

八木委員

はい。では、入れるものと入れないものとあってよいと思います。ただ数字目標がないと達成したかどうか比較することもできないので、難しいところなのかと感じております。④については、すみません、何も意見が浮かびませんでした。

高梨委員

今の話に重なりますが、計画期間が8年なのか12年なのかで基本構想のところの大きな数字としてどちらがよいのか考えながら話を聞いていました。4年は短すぎると思いますし、VUCAの時代と言われても長期的に私たちが目指したいものはこれだという指針はあってもよいという気はしていて、それはもしたら3クール分位検討しているかたちでもよいのでは。ただそれを見直す場所が、基本計画や実施計画の中にあって、基本構想がもう少し大きな視野視点で作っていき、その中の計画に落とし込んでいくこともありえるのかと思っています。実際に計画を作っていく段階の時に、今の既存のグループで考えて作っていくと、どうしても縦で考えている印象があります。一生懸命、政策課の皆様が入ってつないでくださっている印象を思いながらですが、町の人との協働もですが、もしかしたら連携だったりスリム化だったりするのかもしれない。前回の審議会で、幼児教育のところがなくなったと見えただけそうではなく、幼稚園だけでなく保育の方と結びつけてやらなくてはいけないからなのだというお話があったところが、実際はそのように見えてこないことなどがありました。そこは連携をどう見せていくのか、あるいは計画していくのが実施計画なのか基本計画なのか、計画の中で考えていかななくてはいけない項目に入ってくるのではないかと感じながら、意識して会議の内容を聞いておりました。人口については、現状こうなるであろうということ、ここに書くのが目標設定としての目指す姿をどう捉えるのかがあるのかと思いました。挑戦的だけれども、なんとか現状維持にしたいと私たちが動くのか、それとも「減です」としていくのか、最初におっしゃっていたところと重なるのですが、それで仕掛けていく中身が変わっていきたく思います。それと、年齢層は上になり、高齢者も安心して暮らして長く生きていけるのを目指しているとするのか、新規の若いご家族の方達が来てくれる町を狙っていくとするのかで変わってくるので、人口の数字だけでなく町民のビジョンをどう考えるのが本当は大事なのかと思います。同じことが目標のところの評価の達成度合いを見るところでも数値があればよいわけではなく、何の数字を見るのか。何回か資料のところでお話しましたが、例えば、生涯学習の図書館の資料に、読書活動の推進事業で町民一人当たりの貸出数で今回のデータを取っているのですが、とある地域で、図書館の本を幼稚園に団体貸し出しをしてくれているので、園で子ども達がいっぱい読むようになることがあります。それだと一人当たりの冊数は変わらないのですが、本に触れる機会は増えていきます。そうすると評価の指標をどこに置くのかは難しく大事なポイントになるので、場合によっては評価指標が12年間変わらないのではなく、実施計画単位で見直して評価指標を変えましたというようなかたちになっていくのも、VUCAの時代というのを考えていくと、4年後には思ってもいなかったサービスが出てきましたというのがあってもよいのかと思いました。

松井委員

基本的に皆さんが言われていた意見と計画期間等は同じです。4年刻みの12年単位はその通りだと思います。人口推計の捉え方は、皆さん言われているように高齢化が進み、また、ここ何年かはコロナ禍で東京に住んでいても職場に行かなくてよいかから葉山に引っ越してきたという方が増えていたので、そのような方がこれからの仕事がどのように動いていくかで、この人口は変わってくると思います。増にはなかなかならないのではという現状もあります。目標数値は、目標を立てることは大切なことだと思います。ただ数値では難しい部分があるので、高梨委員が言われたように何を目的として何に注目して指標を立てていくかの方が大事だと思います。

臼井会長

まとめるつもりはないのですが、私もコメントを言わないと司会進行だけで参加していないことになってしまうので。総合計画は法定では無くなったので義務はない。義務はないが何のために総合計画を各市町村、都道府県は作るのかというところに戻ります。中長期に渡りどのようなことを行政の目標として仕事に取り組んでいるのかを住民の方にお示しするのが総合計画だと思います。その時におそらく今は住民が計画策定に参加をして、行政と住民と一緒に計画を作る。それは、本来の目的が住民の暮らしやすさ、福祉の向上のためにあると考えれば、住民の意見を聞きながら中長期の計画を立てるということになる。それをお示しするというのが一義的な目的で、加えてそこを受けて自治体や住民の人たちにとって、定めた期間をどのような方向でいくのかという、言ってみれば仕事の進め方のマニュアルのような要素もあり、特に自治体の職員にとってはマニュアルの要素が非常に大きいと思います。その辺りが建前でいう話になると思います。昔、総合計画を別の場面で関わらせていただいた時の感想ですが、そうした時に、それが首長の任期に合わせるのが適当なのかという議論をし始めると、二通り考えることができ、首長が色を出しやすい、あるいは、首長に合わせて総合計画を作れる方が使い勝手が良い。誰にとって使い勝手が良いかということ、首長とその周辺にとって使い勝手が良いとなってしまいます。それで良いのか。今の町長にとって、例えばこのように進めたいということをして8年なり12年という任期の中で、任期は4年しかないですが再選される、あるいは3選されることを前提にしながら、町民と協働作品として計画を作る方が良いのか。それとも、町民が主体であるということを最優先した場合には、味付けは首長がしても良いが、基本的な方向は町民が町と調整して望んだ方向で考えなくてはいけない。と考えると、首長の任期は少し切り離して、味付けはしていただいて構わないけど、それは首長の任期とは別に10年、同じでも構わないけど、首長が左右するのではないと考えた方が良いと考えることもできる。その部分の議論が少し残ると思います。おそらく今日の皆さんのご意見からいくと、任期は意識した方が良さそうだということで、その任期を意識した方が良さそうだ＝首長が使いやすい計画づくりにはならない。町民が町民の意思で町の行政はどうあって欲しいのか。それは、絶対に汲んで計画を作らざるを得ない、作るべきなので、そのこととの関係に関して町長がどのくらい関与しながら味付けをするのかのところについては、もう少し議論をしていただくことを前提で今日のお話で良いのではと思いました。期間としては4の倍数で構わないけれども、それは首長の任期に引っ張られたという期間ではなく、方向転換する可能性も含めながら皆で作っていく計画をどのように考えるのか整理をして、首長さんだけでなく議員も変わるので、町のあり方を議論するタイミングを見ながらブラッシュアップしていけるものとして考えましょう。ただし、変な話ですが、

首長が変わってすぐに計画策定などしませんから、当たり前ですが、代わって1～2年置かないと次の計画は作れません。それも含めて今日の話でまとめて良いと思います。人口推計の話は皆さん大体現実的な対応ともう少し希望的に努力するものと使い分けるのかということに尽きると思います。そのような趣旨で良いのか。ただ、増えること前提でイケイケどんどんで作る話ではないということは確認して良いということ。これが現実的には多くの自治体で現実認識されきっておらず、例えば、現実には商店の数が減っていくとか、食べる場所の食堂やレストランの数が減っていくとか、公共的資源が減っていってしまうこともあるが、人が減るということはそういうことだと思います。その不便さみたいなものを堪えるのではなく本当に困らないようにするための議論はしながら、人口が微減していくことを意識しながら施策を世代区分に応じてスライドさせていくのが現実的な対応だという気がします。目標数値は、話の通りで、あまり考えなくても数値化して大丈夫なものは数値化した方が良いが、質的な内容に関しては、おっしゃる通り教育がその通りで、例えば、小学校の教育は6年間で答えは出ない。先日、大学20周年の記念式典があり、大学の現理事長に半分文句を言うように言ったのですが、「大学の評価は卒業した人が生涯を終えようとした時に、大学の教育がどのように役に立ったか改めて振り返って評価する。個別に特定のところである教育期間を経て5年経って10年経って評価はできなくはないが、本当の評価が固まるまではとても難しい。しかもそれは数値化できない。数値化したら本当に部分的にしか捉えられない。」と話しました。生活というものはそのようなものなので、そのようなことを意識して、数値で示すことができるものは示してあげたほうが、お約束をこのように果たせました、ここはどのように努力できましたと言えるものは、適切な数値があればそれは入れて構わないが、入れられないものを無理に入れてそれにこだわって不思議なメインストリームにない、本流にない端っこの話で評価を議論するのはやはりおかしいと思います。最後に、達成手法の検討で「協働」についてどう考えるかは、最初に戻るのですが、計画は町民がメインにあって町民から税を預かって、町民が持っているニーズに対して行政が税収の中で可能な範囲で支援をすることを考えれば、当たり前ですが、協働作品であることは絶対にブレない。その時に協働作品であるということを前提にどのような協働が可能なかを必ず計画策定の中で改めて考えることが必要。ただし、例えば、住民に対してこれをしてはいけない、住民の声を丸々聞くことも難しいことで、丸々聞くと個別の話が多くなりすぎ全体として非常に辛い結果になることがあるので、そのような中、町民と一緒にものを考えて、どのような答えを出していくのかという意識は絶対に残ってはいなくてはいけないと思う。そのことを町の行政関係の職員がどのように認識してくれるのが一番大事。しかも町民も一緒に参加してくださいね、ということが町民にも皆さんにも伝わっていることが大事。協働することが目的なのではなく、町の行政は、町民に代わって税をいただき、その税を活用して町民にフィードバックする仕事なのだということを、町民と行政の両者がきちんと認識して仕事が進むような環境づくりに努力することに尽きる。それがうまくいっているのなら、協働の項目はあまり考えなくても良くなる。もう少しだけ厳しいことを一言だけ言うと、1回議会で否決されてしまい総合計画を作り直して提案しなくてはいけない時に計画策定のお手伝いをさせていただいたのですが、その時の印象からいくと、特にまちづくり関係に関しては、計画を作る前にイニシアティブを持っている感覚が行政の中に多くあります。これは、葉山町に限らず横浜でも知り合いにそのようなことに携わった方がいらっしゃり、その方はとてもプライドが高く、我々が計画を作るという意識が強いんだけど、

それに町民が協力すれば良いという話では決してなくて、そのことを最初にかなり強く申し上げた記憶があります。そこが改善されてきていけば、おそらく協働の書き振りは緩くなっても構わない。ただ、少し強めに書かなくてはいけない状況が残っているのならば、どのようなふうに町民との関係をこの事業は考えていますかと、絶えず問い直すことが必要かもしれません。今の段階でどのくらいの強さでそれをお願いすれば良いかはわかりませんが、ものによります。保健・福祉系は、割と町民の方がきちんとニーズを出してくださるのでそのニーズにちゃんと答えられているのか、多分答えられていないことのほうが多いのだけど、それでもそのニーズをどこまで受け止めることができるか考えるのだけれども、まちづくりのようなハードに絡んだ話になると、その部分が非常に難しくなってしまう。このように考えたらどうかということを、皆さんの意見を聞きながら考えました。このくらいの話までできていけば、少し見直しをしても審議会の中でこのような意見が多数だったと説明が着きますでしょうか。

事務局（町田部長）

まず、私は事務局の立場なので個別の各論についての意見は申し上げる立場ではないので話しませんが、前回の会議の最後にこの4点について次回ご意見をくださいと言った後に、戻ってから30年も役場で働いておきながら、附属機関の立場をわきまえずに白紙の状態の皆様にご意見くださいと確かにいささか乱暴であったと反省をしているところで、何を30年仕事してきたのか自問しました。ですが、結果論は皆様から様々なご意見を伺え、4点につきましてはいろいろご指摘と提案をいただいたので結果的にはよかったと思います。お礼を申し上げたいと思います。ご意見を伺い「確かにそうだな」と思うところと「そういう考え方もあるのか」と気づきも得られましたので是非、生かさせていきたいと思えます。事務局佐野以下も同じ思いだと思えます。代表してお礼を申し上げます。ありがとうございました。

高梨委員

一点だけ、このような場で一町民の意見を聞いて下さったということに大変感謝申し上げます。ありがとうございます。

臼井委員

本当にこの類の意見を審議会の中で求められるのではないですよ。これは凄いことだと思う。すごく大事なことで、大事なことを皆で議論して皆さんの意見は大きくはブレていないので、そんなにおかしくないところで大体ある範囲の中に収まっていますので、それを参考にさせていただいて次のステップの議論ができればと思います。ありがとうございます。あと10分ほどですが、いかがですか。

近藤委員

今、臼井会長が言われたように私も多くの審議会に出っていますが、これだけ活発に意見が出る審議会はなかなかありそうでなくて、非常に良いなと参加させていただいております。先ほど、人口推計のところ、世代間別の設定をしたらどうかという話がありましたが、私もとても同感します。ただ、総合計画に世代別の人口推計を書くのは、とても難しいと思えます。理想で言えば、高齢化率の高い葉山町でいえば、若年層や子ども達が増えるのはバランスとしてはとても良いと心の中では思っているのですが、なかなか書きづらい。行政運営や今後の計画を作る上で、これまで3年我々が翻弄されてきたコロナ禍から得るもの、見えてきたものを何か書き振りとしてあっても良い

と思います。葉山の人口の働き方改革、テレワークもあり、人口の流動性が非常に高まった中、葉山で起きた人口の流入、流出の減少や世代の話などのこの流れが、コロナ禍がトリガーとなって今後も続くと思います。その中であって今までのプランを作ってその通りに進めるより、何かもう少し戦略的な計画が作れると私は思います。それぞれ計画に書くのは難しいので、計画を策定する前提の上でより戦略性が求められると書き加えられたらと思いました。重ねて、人口推計の話で先ほども少し申し上げたのですが、今後ドラスティックに人口が増えることは考えられない中、持続可能性や住民の満足度、行政サービスの質にもう少しこだわり抜いた計画づくりができれば良いかと思っています。意見として申し上げさせていただきます。

臼井会長

最初の方で近藤委員が言われた話に関連しますが、感染症や災害など外圧で大きな力がかかった時の緊急対応のようなことで、別の動きがある可能性を少しどこかに書き込んでおいても良いかもしれません。「このような状況が起きた時は、計画は一時中断しながらどうこうする、新たなフレームを皆で知恵を絞るような取組をしようと思っています」というようなことを書いても良いかもしれません。あまりそこを深く考えるのは、細かくやればやるほど時間がかかるので、そこに労力を使うのは勿体無いので、緊急事態条項のようなものを少し用意しておく話はあるかもしれない。普通、総合計画を作るときはそのようなものは書かないと思います。例えば、「このようなことがあったらハードものの整備に対して一時保留をすることも状況としてはありうる」など、どこまで書くかはわかりませんが、そのためのものがあると、近藤委員が言われた最初の話は対応できる可能性はあります。あとはいかがでしょう。よろしいでしょうか。皆さん1回ではなく2回は話をさせていただけたと思います。意見も大体で多様なので、議論（3）は以上にしたいと思います。

(4) その他

事務局（大前係長）

来年度のスケジュールについて、令和5年度、おかげさまで予算が無事通過し審議会を6回開催させていただきましたと思います。ご協力をいただければと思います。そして令和5年度末の段階であればパブリックコメント案に近い状態まで持っていきたいと思います。令和6年の春先にはパブリックコメントを実施したいと思っております。だいたスケジュールが急なのですが、そこまでいきたいと思っております。そして、令和5年度第1回の審議会は、初夏の段階で5月か6月に開催できればと考えております。年度が改まりましたらまた日程調整をさせていただきます。ご承知おきください。よろしく願いいたします。

3 閉会

事務局（町田部長）

次回の審議会の時におそらく我々事務局の方で策定のロードマップを時系列に落とし込んだものを見える化し改めてご説明させていただきたいと思いますので、6回共々お付き合いいただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

臼井会長

お忙しい方ばかりで恐縮ですが、また次年度も続くということのようですから、よろしく願いいたします。本日は以上とさせていただきます。ありがとうございました。

終 了